第 4 回　松江制服図鑑明治編　−私立中学修道館の巻−

史料編纂室で調査のためにお預かりする文書群には、古い写真も含まれます。今回は、そのうちのワンショットをご紹介します。明治 32 年(1899)に撮影された私立中学修道館の 2 年生達です。

修道館は、明治 23 年(1890)11 月松江市南田町に開校しました。そのころ島根県内の中学校は島根県尋常中学校 1 校のみ。開校目的の一つは中等教育機関の不足を補うことでした。名称は藩校に由来します。

私立学校が中学校としての設備を充実させるのは容易でなく、経営には常に経済的困難がともなっていたようです。しかし多くの人々の篤志に支えられ、明治 33 年以降は県費からの補助も受けて学校は発展していきました。

ところが、県内の中等教育機関が増えたうえ、実業学校を求める声が高まったため、県費は工業高校の新設に向けられることになりました。

私立中学修道館は明治 40 年(1907)3 月に閉校、その校舎を使って松江市立工業学校修道館が開校します。翌年には県立に。修道館の名称存続は閉校の条件の 1 つで、昭和 19 年(1944)まで県立工業学校の校名に残っていました。

写真中央は、漢学の海野恭基（典之）先生。閉校時の教師陣のなかでは最年長で天保 10 年(1839)生まれです。閉校式で生徒代表は、修道館は和気藹々とした家庭的学校を自任していたと述べています。写真の海野先生はまるで大勢の孫に囲まれたおじいちゃんのように見えます。

修道館が制服を定めたのは、明治 28 年(1895)。同じ年に、夏目漱石は愛媛県尋常中学校に赴任しています。写真に写っているのは『坊っちゃん』（明治 39 年発表）と同時代の私立中学の生徒ということになります。

生徒達は、学生帽をかぶり、上着とズボンという装い。

上着は詰襟で縁取りのある短ジャケット。立襟の高さはそれほどありません。前は鉤ホックのようです。県立の尋常中学校と大きく違う点は着丈が短いところ。服地は写真ではわかりませんが、一般には紺の羅紗やサージが多かったので、そのあたりかも。ホックを全部留めないのも着こなしのうちでしょうか。

ズボンは側面に太めのライン入り。側線の色は白かと思われ、濃色の県立とは対照的です。ところで 3 名ほど 5 個 1 列のボタン付上着を着用しています。彼らのズボンの側線は 2 本。学生帽も 2 条の白線入り。理由はわかりませんが目立っています。上着の下は自由だった様子。

学生帽は丸帽ですが、頂部は平らなものや山形とばらつきがあります。そして正面に「修」の 1 字を打ち出した校章。

松江の街中を行く修道館生徒の制服姿は、小学校に通う男の子の眼にはきっとかっこよく映っていたことでしょう。

（平成 23 年 1 月 5 日 文化財課史料編纂室 居石由樹子）